安田の魅力、再発見！

船上小は以西、安田、成美３地区の小学校が統合してできた学校。毎年行われる遠足では３地区を順番に訪れており、地域への理解を深めている。本年度は、５月１日に遠足があり、安田地区に出かけた。同地区の名所や魅力を学校新聞で紹介しようと６年生児童が取材し、記事にまとめた。

6年生が作った新聞です

光の鏝絵　ガイドの豊嶋さんに聞く

蔵の絵一つ一つに意味

琴浦町光集落の蔵には、約60年前から作られている「光の鏝絵」がある。６年生３人が６月６日、同町光の豊嶋玄三男さん(76)に鏝絵について話を聞いた。

光の鏝絵は、明治生まれの吉田貞一さんが光集落で左官の弟子となり、鏝絵を見て興味を持って作り始めた。鏝絵といわれるのは、左官さんが「こて」という道具を使っていたからという。

鏝絵には、鶴や亀、コイ、カブ、打ち出の小づちなどがある。鶴は千年、亀は万年といわれ、長寿を意味する。コイは竜門の滝を登ることに成功した魚が竜になったとの言い伝えがあり、出世の象徴だ。カブは「株が上がる」から評判が良くなり、打ち出の小づちは、振ると欲しいものが手に入り縁起が良い。

豊嶋さんは「光の鏝絵の良さを広めるためにガイドをしている」と語り、見学した田中美優愛さんは「蔵の鏝絵の一つ一つに意味が込められていてすごいと感じた」と話した。

（生田結麻、田中美優愛、橋本丈太郎）

光の鏝絵の概要を話す豊嶋さん

見事なカブの鏝絵

河本家住宅　小泉さんに聞く

「全国に誇れる古民家」

大庄屋、340年前に建築

河本家住宅について説明する小泉さん

琴浦町箆津には、河本家住宅という約３４０年前に建てられた、日本が世界に誇れる木造住宅がある。６年生４人が６月５日、同町下市の小泉傑さん(67)に話を聞いた。

河本家住宅は、２００２年に保存会がつくられた。10年12月に国の重要文化財に指定されたことをきっかけに、さらに有名になった。

小泉さんは「河本家住宅は全国に誇れる古民家」と説明した。その大きな理由は、建物が特に古いということと、庄屋をしていたということという。

河本家は庄屋の中でも大庄屋で、さらに学問を大切にしていたことも有名になった理由の一つだ。約３４０年たった今でも、水戸光圀が編集した「礼儀類典」が５１４冊も完全に残っているなど、多くの古文書がある。

かやぶき屋根は、昔は30年ごとにふき替えをしていたが、今は20年ごとに行っている。そのかやは、九州や東北から運ばれてくるという。

小泉さんは「琴浦町にこんな所があるんだよ！と自慢したい」と語った。

（金田嬉子、福田もな、野間田菜緒、斎尾尊）

伯耆稲荷神社　河合宮司に聞く

900年前、豊作願い建立

琴浦町箆津には、伯耆稲荷神社という有名な神社がある。６年生４人が６月５日、宮司の河合鎮徳さん(71)に話を聞いた。

神社や神事について話をする河合宮司

この神社は、今から約９００年前の平安時代末期、豊作を願う人々によって建てられた。現在も県内外から多くの人が参拝に訪れている。

鳥居が朱色に塗られているのは稲荷神社の特徴で、伯耆稲荷神社の鳥居も朱色だ。朱色に塗る理由は三つあり、魔よけのため、祈りが通じるように、そして、長持ちするからという。

名前の「伯耆」の意味は、昔、鳥取県ができる前、県内の東部を因幡国、中西部を伯耆国と呼んでいた。「稲荷」は、稲を背負うという意味で、伯耆稲荷神社という名前になったそうだ。

鳥居がたくさんある理由について、河合宮司は「人々のいろいろな願いがかないますようにとの願いを込めて、多くある」と説明した。

（足立匠汰、高野楓叶、小椋楽、西永陽乃和）

牛舎ハッピーフィールド　経営者の福田さんに聞く

琴浦町箆津の「ハッピーフィールド」という牛舎では、母牛117頭、育成牛103頭の計220頭を飼育している。６年生の４人が６月５日、牛舎を経営する福田寛さん(46)に話を聞いた。

220頭を飼育 早朝から世話

1頭の1日のえさ50キロ。

牛舎で乳牛について説明する福田さん

「ハッピーフィールド」の由来を聞くと、ハッピーは「福」を表し、フィールドは「畑や広場」を表すという。

牛のえさとなる牧草は、アメリカから輸入。牛１頭当たり、１日にえさを50キロ食べ、水を100リットル飲む。120頭から搾乳できる生乳の量は４トンで、春が一番取れる量が多い。

福田さんの１日の仕事は、午前４時半～９時が搾乳やえさやりのほか、トウモロコシの収穫や種まきなど。午後３時～４時は搾乳を行い、同７時半に仕事を終える。

家で黒毛和牛を飼育している６年生の内山篤乃さんは「乳牛と和牛で、えさの種類など違うことが多くてびっくりした」と話した。

（内山篤乃、高力羽奈、谷本光、御崎幸愛）

船上小新聞

学校概要

【学校名】琴浦町立船上小学校
【所在地】東伯郡琴浦町佐崎16
【校長名】東　信太朗
【児童数】108人
【沿　革】2014年4月、以西小・成美小・安田小が統合して開校
2023年4月、創立10周年
【教育目標】自ら学び、心豊かにたくましく今を生き、未来を拓く子どもの育成
「力いっぱい　やさしさいっぱい　笑顔あふれる学校～自ら考え、行動する子～」

編集後記

６年生は、学校新聞の発行と大型共同書道に取り組んで11年目になる。

本年度の学校新聞では、安田地区について地域の人にインタビューし、工夫して記事を書き上げた。たくさんの人に船上小のことを知ってもらえたらうれしい。

共同書道は、山田美鈴先生に教えていただきながら取り組んでいる。山田先生は「共同書道を通して、６年生が船上小のリーダーという気持ちを持てるようになってほしい」と、11年目の取り組みへの思いを語った。

（前田陽明）

６年生が力を合わせて書いた大型共同書道

ジョエル先生から見た安田地区は？

地域文化多く、いいところ

児童と一緒に遠足に参加したジョエル先生（奥）

船上小の児童は、ＡＬＴ（外国語指導助手）のジョエル・デイビット・ラックル先生(31)から英語を学んでいる。５月１日の全校遠足ではアメリカ出身のジョエル先生も全校児童と一緒に遠足に参加し、安田地区を訪れた。

ジョエル先生は、家族が日本のことが好きという理由もあり、今年から来日した。スポーツが大好きで、長い間バレーボールをしてきた。

６年生３人が遠足で回った安田地区の印象についてジョエル先生に尋ねると、「安田地区のことは遠足で初めて知った。アメリカにも遠足はあるが、船上小と違うのはバスで行くところだ」と話した。

また、ジョエル先生は安田地区のことを「地域の文化がたくさんあっていいところだと思う。特に、牛舎のハッピーフィールドが印象的だった」と語った。

（高塚日和、中原結華、玉木華凜）